

研究課題名	ニロチニブ治療を受けた慢性骨髄性白血病患者に合併した血管閉塞性イベントの後方視的研究
研究体制	■長野赤十字病院が責任研究機関となる
研究責任者	当 院 所 属 <u>血液内科</u> 氏名 <u>住 昌彦</u>
研究期間	(西暦) 2017年 2月 ~ 2020年 2月
研究の概要	<p>(研究の意義・目的)</p> <p>ニロチニブは第2世代チロシンキナーゼ阻害薬 (TKI) であり、慢性骨髄性白血病 (CML) に対して第1世代 TKI であるイマチニブより速やかで深い分子遺伝学的効果をもたらすことが明らかにされているが、長期の有効性や安全性については不明な点も多い。欧米からはニロチニブ長期投与患者において、動脈硬化に起因した血管閉塞性イベント (末梢動脈疾患、脳梗塞、冠動脈疾患) 発生リスクが上昇することが報告されている。しかし本邦の患者において、血管イベント発生に関するデータは乏しく明らかにされていない。本邦におけるニロチニブ関連血管イベントの発生率と臨床的特徴を明らかにし、対策法を確立するため今回の研究を行う。</p> <p>(研究方法)</p> <p>2009年1月~2015年12月に当科で6ヶ月以上のニロチニブ投与を受けた慢性骨髄性白血病 (CML) 患者19名を対象とする。電子カルテ上のすでに診療を得られた調査項目内容を抽出し検討する。新たな研究材料は用いず、後方視的研究であるため被験者に起こり得る危険は無い。</p> <p>(調査項目)</p> <p>年齢、性別、合併症、既往歴、喫煙歴等の生活歴、CMLの経過、ニロチニブ投与量と効果、前治療内容、血管閉塞性イベントの詳細、臨床症状、血算、生化学検査、MRI・CT・血管造影等の画像検査、ABI等</p>
研究対象者	<p>2009年1月~2015年12月に当院血液内科で6ヶ月以上のニロチニブ投与を受けた慢性骨髄性白血病 (CML) 患者19名</p> <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>
個人情報保護の方法	■連結可能匿名化

お問い合わせ先

〒380-8582

長野県長野市若里五丁目22番1号

長野赤十字病院

所属 血液内科 氏名 住 昌彦

TEL : 026-226-4131 (代表) FAX : 026-228-8439